

教科	国語	科目（単位数）	現代文 B（2）	学年	2	類型	
----	----	---------	----------	----	---	----	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	①評論「対話の精神」 ②評論「ミロのヴィーナス」	①②筆者の主張を正確に読み取った上で、それを自分の問題として受け止め、考えをまとめることができる。比べ読みができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	①小説「山月記」 ②評論「家族化するペット」	①作品の主題を読み深め、自分自身を見つめ直す契機とすることができる。 ②読み取ったことを踏まえて、社会の変化に対する自分の考えをまとめることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	①詩「竹」「永訣の朝」 ②評論「科学の現在を問う」 ③小説「こころ」	①詩歌を音読し、その独特のリズムを味わうことができる。詩的言語のはたらきを理解し、言語感覚を磨くことができる。 ②文章の構成や段落相互の関係を読み取りながら、筆者の主張や文章の内容を捉えることができる。 ③描かれた人物、情景、心情を表現に即して読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	①評論「分かち合う社会」 ②小説「山椒魚」	①考察から導かれる筆者の主張を正確に把握し、人間社会の普遍性について考えることができる。 ②山椒魚や小エビの行動や心理の変化を正確に把握し、寓話的な話のおもしろさを味わうことができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	①評論「敬語への自覚、他者への自覚」 ②評論「世界は、いまー『多文化世界』の構築」 ③評論「『考える葦』であり続ける」	①②③論理の展開や要旨を叙述に即して的確に捉えることができる。「国際社会における文化の多様性」「他者理解」「思考」について自分のこととして考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	①さまざまな文章	①雅俗折衷の文語体の文章に慣れ親しみながら、描かれた人物、情景、心情などを読み味わうことができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「精選現代文B新訂版」(大修館書店) 副教材：「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「意味から学ぶ頻出漢字3000」(第一学習社) 「現代文単語」(桐原書店)
学習方法	本文の音読、語句の意味調べをして授業に臨むこと。(予習)
評価方法	観察(発言・発表) ノート(ワークシート) 定期考査

教科	国語	科目（単位数）	古典Ｂ（３）	学年	２	類型	
----	----	---------	--------	----	---	----	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	①説話「古今著聞集」～能は歌詠み～ ②小話「十八史略」～完璧而帰～	①②比較的小さい文章を読んで、古文、漢文に親しみをもち、話の内容を理解することができる。また、当時の人々のものの見方、考え方を味わうことができる。助動詞の習得。句形の習得。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	①随筆「枕草子」～宮に初めて参りたるころ～ ②史記 1「史記」～鴻門之会～	①随筆を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取ることができる。助動詞、副詞の呼応の習得。 ②話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取ることができる。句形の習得。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	①随筆「徒然草」～家居のつきづきしく～ ②史記 1「史記」～四面楚歌～ ③歌物語「伊勢物語」～初冠～ ④歌物語「大和物語」～姥捨～ ⑤小説「太平広記」～夜行逢鬼～	①随筆を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取ることができる。②話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取ることができる。句形の習得。③④歌物語における和歌の役割を理解することができる。⑤中国における小説の芽生えと成長について考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	①物語「源氏物語」～光源氏の誕生～ ②物語「大鏡」～道長と伊周の競射～ ③思想「孟子」「老子」「荘子」	①②長編物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わうことができる。最高敬語、終助詞について理解する。 ③古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知る。句形の習得。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	①物語「源氏物語」～若紫～ ②小説「世説新語」～小時了了～ ③日記「更級日記」～門出～ ④日記「蜻蛉日記」～なげきつつ～ ⑤文「楚辞」～漁父辞～	③④日記を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取ることができる。助詞の習得。 ②⑤中国の代表的な文章を読んで、作者の人生観・政治論・名人論を知る。文章の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。句形の習得。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	①軍記物語「平家物語」～忠度の都落ち～ ②日本の漢詩文	①表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむことができる。軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わうことができる。 ②日本漢文に触れ、中国の話との比較読みができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

<p>学習 目標</p>	<p>～言葉で「他者とつながる力」「他者に学ぶ力」をつける～</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 言葉についての関心を高め、言語感覚を磨き、高い語彙力をつける。 (2) 文章を正確に読解する力をつける。 (3) 異なる時代・環境の思想や価値観に触れ、日本の文化の特質について理解を深めるとともに、自身のものの見方、感じ方、考え方の幅を広げる。 (4) 古典作品の鑑賞力をつけ、人生を豊かにする態度を身につける。
------------------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	①説話「今昔物語集」馬盗人 ②思想「老子」小国寡民 「韓非子」侵官之害	①説話が生み出された背景を知り、日本の文化や伝統についての認識を深める。 ②道家の思想と法家の思想を既習の「儒家」の思想と比較しながら、それぞれの思想の現代的な意義について考えを深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	①日記「和泉式部日記」 薫る香に ②漢詩 古体詩「飲酒」 「子夜呉歌」「石壕吏」 ③文章「春夜宴桃李園序」	①作者の奔放な恋愛の発端となった冒頭部分を読み、和歌に込められた登場人物の心情について考える。 ②文学的な作品に触れ、作品が生み出された時代背景や作者の境遇などを考察し、作品に表現された心情や思想について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	①日記「蜻蛉日記」 町の小路の女 ②史伝「史記」 荊軻（一）（二）	①作品の生まれる契機となった作者の境遇を認識し、作者の苦悩を和歌に込められた心情とともに理解する。 ②長文の漢文に読み慣れ、読解鑑賞する能力を増進する。司馬遷の劇的で簡潔な力強い描写を読み味わう。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	①物語「大鏡」肝だめし ②物語「源氏物語」御法 ③史伝「史記」荊軻（三）	①藤原道長の人物像を他の登場人物の描写と比較しながら読み解き、読解力を深める。 ②紫の上の臨終の場面から、登場人物の心情を読み解き、また平安時代の死生観について理解する。 ③長文の漢文に読み慣れ、読解鑑賞する能力を増進する。司馬遷の劇的で簡潔な力強い描写を読み味わう。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～年度末	①問題集を用いた問題演習	①これまで履修したことを振り返りながら、古人のものの考え方、生き方ひいては日本の優れた言語文化に対する認識を深め、古典の価値を見いだすとともに、現代とのつながりや自分自身の生き方やあり方を考える。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「古典Ｂ 改訂版 古文編」「古典Ｂ 改訂版 漢文編」（大修館書店） 副教材：「国語便覧」（数研出版）／「体系古典文法」（数研出版）／「漢文体系」（数研出版）／ 「古文単語３３０」（いいずな書店） 【文Ⅱ・理系】「完成古典」（尚文出版）／その他大学入試共通テスト用問題集
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黙読する。・ 音読する。・ 語彙を広げるため辞書を引く。 ・ 予習、復習を通して、古文単語、文法、漢文句法の習得、応用に努める。 ・ 古典作品を通して当時の人の生き方や考え方を知り、自分自身のあり方生き方についての考察を深める。
評価方法	提出物による評価を２割、考査による評価を８割で総合的に１００点法の評点とともに５段階で評価を行う。